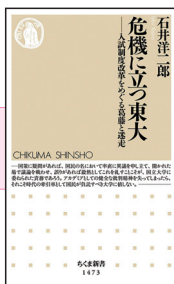




ブック

著者は「文学
作品とは汲めど
尽きせぬ大海の
ようなものであ
り、作者の意図
などという窮屈
な思い込みに縛
られることなく、誰もが多様な
解釈可能性を模索しながらその
中を自由に泳ぎま
わる権利をもっ
ている」という。
だ
が、科学知に属す
る学問は、客観的
な根拠に裏付けら
れているので役に
立つのに対し、人
文知に属する学問
は客観的な根拠の
裏付けがないので
役に立たないとい
う図式が浸透しつ
つあると言う。

本書は「秋入学問題」「文系学
部廃止問題」「英語民間試験問題」
「国語記述式問題」という4つの
事例について、そこで失われた
つある「時間の流れ」の連続性
と、「空間の広がり」の全体性を
回復するために、緻密に思考を
練りあげるための余暇（スコレ
ー）と、各々が培った思考を他



危機に立つ東大 入試制度改革をめぐる葛藤と迷走

石井洋二郎 著
924円 ちくま新書
☎03-5687-2680

れ以降は、「学校歴」はどうあ
れ、「泳ぎ回り」も含めて、科
学知と人文知のスコレーとフォ
ーラムのなかで個人の人生が充
実し、地域、家庭、職場での学
び合い支え合いによって社会形
成者として充実を図れるかどう
かこそが問われるべきであるう
(前聖徳大学教授・西村美東士)

も、「賞味期限」
はせいぜい3年程
度といえよう。そ
れ以降は、「学校歴」はどうあ
れ、「泳ぎ回り」も含めて、科
学知と人文知のスコレーとフォ
ーラムのなかで個人の人生が充
実し、地域、家庭、職場での学
び合い支え合いによって社会形
成者として充実を図れるかどう
かこそが問われるべきであるう
(前聖徳大学教授・西村美東士)

者と自由に交換することのでき
る言論の広場（フォーラム）が
必要とし、知的興奮と感動に沸
き立つキャンパスにおいて、東
大が全国の大学の先頭に立つて
その責任を果たすよう主張する。
評者は、筆者の主張するこの
ような「知的興奮と感動」の魅
力に共鳴しつつも、その場を大
学だけに求めるこ
とに違和感を覚え
る。過去の「学校
歴社会」の頂点に
あったのが東大
である。しかし、
人の生涯にわたる
進展と充実が重視
される「学習社会」
にあつては、頂点
の東大を卒業して